

# 学校法人 柏 専 学 院

## 平成 28 年 度 事 業 報 告

### 目 次

第 1 部 学校法人柏専学院の概要	.....	P 1
1. 設置する学校、学部、学科等		
2. 学生数の状況		
3. 役員、教職員の概要		
4. 理事会開催状況		
第 2 部 事業の概要	.....	P 4
I 新潟産業大学		
1 大学全体		
1. 1 管理・運営		P 4
1. 2 附属図書館		P 5
1. 3 FD (ファカルティ・ディベロップメント) 及び SD (スタッフ・ディベロップメント)		P 6
1. 4 施設設備		P 7
2 経済学部		
2. 1 教 育		P 8
2. 2 研 究		P10
2. 3 学生への支援		P11
2. 4 留学生支援		P13
2. 5 学生募集及び入学試験		P16
2. 6 地域貢献・生涯学習		P18
2. 7 国際交流		P21
3 大学院経済学研究科		P22
3. 1 教育及び研究指導の改善		
3. 2 学習・研究の支援		
3. 3 教育の成果		
3. 4 国際交流		
II 新潟産業大学附属高等学校		P23
1. 「教育等の事業」の概要		
2. 今年度の実績		
3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ		
4. 生徒募集		
5. 新規取組事項		
第 3 部 財務の概要	.....	P32

# 第 1 部 学校法人柏専学院の概要

## 1. 設置する学校、学部、学科等

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	開設年度	備考
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	昭和 6 3 年度	入学定員 8 0 収容定員 3 4 0
		文化経済学科	平成 2 1 年度	入学定員 6 0 収容定員 2 6 0
	大学院 経済学研究科	経済分析・ビジ ネス専攻	平成 1 6 年度	入学定員 1 0 収容定員 2 0 ※修士課程
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		昭和 3 3 年度	入学定員 1 6 0 収容定員 4 8 0

## 2. 学生数の状況

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	学年	学生数	
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	1 年	9 0	2 7 4
			2 年	9 4	
			3 年	5 1	
			4 年	3 9	
		文化経済学科	1 年	4 1	1 6 2
			2 年	4 5	
			3 年	3 4	
			4 年	4 2	
	合計( 大学 )			4 3 6	
	大学院	経済学研究科	1 年	2	9
2 年			7		
合計(大学院)			9		
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		1 年	1 5 1	4 1 2
			2 年	1 0 9	
			3 年	1 5 2	
	合計( 高校 )			4 1 2	
総 計			8 5 7		

### 3. 役員、教職員の概要

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

		現 員					
役員等	理事	監事	役員合計		評議員		
	1 1	2	1 3		2 3		
教員・教諭	大学				高校		
	専任				非常勤	専任	非常勤
	大学院	経済学部	合計				
	9 (併任)	2 8	2 8		3 1	3 0	1 2
職員	大学				高校		
	専任	嘱託	臨時	合計	専任	嘱託	臨時
	2 1	4	4	2 9	4	—	—

### 4. 理事会開催状況

回数	開催日	理事定数 8~11 人 (現員 9 人) 監事定数 2 人 (現員 2 人)		議題、報告事項
		出席理事	出席監事	
第 1 回	H28.5.27	9 人	2 人	議題 1.平成 27 年度事業報告 2.平成 27 年度決算 3.平成 28 年度当初予算の一部変更 4.評議員の 選任 5.副理事長・常務理事の選任、理事分掌 6.参与の選任 7.大学人事 8.規程改正
第 2 回	H28.5.27	9 人	2 人	議題 1.平成 28 年度当初予算の一部変更 報告 1.新潟産業大学教職員組合との交渉経過 2.「新 潟産業大学の公立大学法人化に向けて」の市長 への提出 3.資金運用状況
第 3 回	H28.9.28	9 人	2 人	議題 1.私学事業団 経常費補助金特別補助「平成 28 年 度私立大学等経営強化集中支援事業」申請に係る 本法人経営改善計画策定 2.規程改正 3.大学教 員人事 報告 1.公立大学法人化への取り組み
第 4 回	H28.11.25	9 人	2 人	議題 1.理事、評議員の選任
第 5 回	H28.12.2	7 人	2 人	議題 1.理事長、副理事長、常務理事の選任 2.理事分掌 3.「学校法人柏専学院新潟産業大学学長選考規程」 の制定及び「新潟産業大学学長選考規程」の廃止
第 6 回	H29.2.8	8 人	2 人	議題 1.新潟産業大学学長選考 2.大学人事
第 7 回	H29.3.30	8 人	2 人	議題 1.平成 29 年度事業計画 2.平成 28 年度第 1 回 補正予算 3.平成 29 年度当初予算 4.人事(大 学・高校) 5.理事、評議員の選任 6.規程改正 7.参与の選任

第8回	H29.3.30	8人	2人	<p>議題 1.平成 29 年度事業計画 2.平成 28 年度第 1 回補正予算 3.平成 29 年度当初予算 4.理事長、副理事長、常務理事の選任 5.理事分掌</p> <p>報告 1.柏崎市の本学支援補助事業 2.私学事業団「経営強化集中支援事業」の本学選定 3.平成 29 年度入試状況 4.平成 28 年度卒業生就職、進路状況 5.公立大学法人化の進捗状況</p>
-----	----------	----	----	--

## 第2部 事業の概要

### I 新潟産業大学

#### 1 大学全体

##### 1. 1 管理・運営

実施項目	平成 28 年度実施内容
(1)大学の運営体制の強化	<p>①「学長・副学長等会議」の一層の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学長・副学長等会議」において「管理運営方針」を策定した。</li> <li>・学長の意思決定に資するために、教育研究及び運営に関し協議する「学長・副学長等会議」構成員の役割分担及び権限を明確にした。具体的には、「学長・副学長等会議」の各構成員を、センター等の附置の機関や各種委員会組織（教務、学生、国際センター、入試、就職、地域連携センター等）に委員として配置した。（平成 28 年 5 月 1 日付け）</li> <li>・全学自己点検・評価の実施体制を確立するために、「学長・副学長等会議」を「自己点検・評価運営委員会」とした。</li> </ul> <p>②全学自己点検・評価の実施</p> <p>「内部質保証に関する方針」を定め、「新潟産業大学自己点検・評価に関する規程」を改正し、全学自己点検・評価を実施し、その結果を大学ホームページに公表した。</p> <p>③教員評価</p> <p>教員の教育研究業績を集約するとともに、教員の自己点検・評価を実施した。</p> <p>④教職員の意識改革の推進</p> <p>9 月 14 日に大学の財務状況についての全教職員説明集会を開催した。</p> <p>⑤その他</p> <p>内部監査規程により、内部監査を行った。</p>
(2)財務の改善	<p>1) 学生確保による収入増</p> <p>①平成 29 年度春学期入試及び平成 28 年度秋学期入試の結果は以下のとおりである。「2. 5 学生募集及び入学試験」を参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年度春学期 1 年次入学生は 101 人で、対前年同期比 15 人の減少となった。</li> <li>・平成 28 年度秋学期 1 年次入学生は 19 人で、対前年同期比 6 人の増となったが、平成 28 年度秋学期編入学生は 2 人で、対前年同期比 4 人減少となった。</li> </ul> <p>②モンゴル国並びに中国内モンゴル自治区において海外秋学期入試を実施し、留学生を受入れた。詳細は、「2. 5 学生募集及び入学試験」を参照。</p>

	<p>2) 外部資金の獲得</p> <p>①私学事業団特別補助金の獲得 私立大学等経常費補助金特別補助「私立大学等経営強化集中支援事業」の採択を受け 38,461 千円の補助金交付を受けた。</p> <p>②科学研究費補助金（科研費）採択の取組み強化 詳細は「2.2 研究（2）」を参照</p> <p>③柏崎市私立大学学生募集支援事業補助金 平成 27 年度の同事業補助金に比して 13,439 千円増の 19,739 千円の補助金交付を受けた。</p> <p>3) その他の収入増</p> <p>①寄付金収入の増 寄付金（「新潟産業大学基金」）、約 7,707 千円を受け入れた（受配者指定寄付金 720 万円を含む。）。また、新潟産業大学基金寄付者芳名板を平成 28 年 9 月に設置した。</p> <p>②不要資産の売却 新潟県中越沖地震により取り壊した大学国際交流会館跡地については売却には至らなかった。</p> <p>4) 経費の節減</p> <p>① 期末手当、勤勉手当の減額等により人件費を削減した。</p>
(3)情報発信	<p>1) 効果的な情報発信 詳細は「2.5 学生募集・入学試験（5）」を参照。</p> <p>2) 多様な情報ツールの活用</p> <p>① I C T の活用 平成 29 年 1 月より大学ホームページのリニューアル公開を行った。主な改良・改善点は 1) スマートフォン対応、2) Twitter, Facebook, Line 等の SNS との連携強化、3) 多言語サイトの展開、4) サイト分析等に基づいた改善提案等。</p> <p>②その他の媒体の活用 新聞、ラジオ、交通機関広告、広報かしわざき等の媒体の他、教員とゼミナール学生が制作したパンフレット等により情報発信した。</p>

## 1. 2 附属図書館

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1)利用者への支援	<p>①利用満足度の向上 学生及び教職員の図書館利用の満足度向上のため、陳列・展示、レファレンス（資料相談）、閲覧室の環境整備を実施した。また、プライベートな空間を求める学生のための場所も確保し、図書館利用の充実を図った。</p> <p>②選書ツアーの実施 図書や読書への興味や関心を高めることを目的に、学生による書店</p>

	<p>での選書ツアー（実地選書）を開催した。 前年度とは別の書店で実施し、実地選書のほか、日本銀行新潟支店・メディアシップ見学も日程に加えた。</p> <p>③ツイッターによる図書館の情報発信 図書館公式ツイッターを使い、図書館からのミニ情報、図書紹介、企画案内等、積極的な情報発信を行った。また、Web 本棚（ブログ）を活用した図書紹介も行った。</p>									
(2)資料の整理・整備	<p>①配架図書の整理 配架図書の新陳代謝を図る観点から、図書の整理を行った。教職課程や郷土資料、資格取得、就職活動など、目的別に利用者を誘導できるように、各コーナーの特色をさらに高め、図書を充実させた。また、教員からの指摘により関連図書をまとめ分類などの見直しを図った。</p> <p>②図書の除籍 複数冊ある蔵書を中心に図書の除籍作業を行い、図書の整理、書棚のスペース確保・狭隘緩和を進めた。</p>									
(3)資料の管理・保存	<p>①蔵書の確認・点検 返却遅延者管理の徹底と蔵書点検の実施で、所蔵の確認と不明本の抽出を行った。平成 28 年度末の不明本冊数は、26 冊となった。</p>									
(4)開館サービス状況	<p>①開館時間：月～金 9:00～19:00 長期休業期間中 9:00～17:00</p> <p>②入館者延べ人数：23,542 人（対前年度比 151 人減） カフェスペースの利用や DVD 利用、学習利用、学外者利用の固定化などにより、平均図書館滞在時間を伸長させた。</p> <p>③資料提供 ・貸出数： 3054 冊（前年度から 207 冊増） ・貸出延べ人数： 1,220 人（うち、学生 667 人） ・他大学図書館等との相互協力による資料依頼・資料提供件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>文献複写</th> <th>相互貸借</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>依頼</td> <td>36</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>受付</td> <td>28</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table>		文献複写	相互貸借	依頼	36	40	受付	28	29
	文献複写	相互貸借								
依頼	36	40								
受付	28	29								

### 1. 3 FD（ファカルティ・ディベロップメント）及び SD（スタッフ・ディベロップメント）

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1)FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の推進	<p>①授業改善アンケートの実施 春学期（平成 28 年 6 月 20 日～6 月 24 日）と秋学期（平成 28 年 11 月 14 日～11 月 18 日）の 2 回、授業アンケートを実施した。 アンケート結果については、「科目別各回答率分布表」「全体結果グラフ」「クロス集計結果」を本学ホームページに掲載し一般に公開した。また、「アンケート結果に対する教員から学生へのコメント」を学内公開した。「自由記述欄」への回答は、各々担当教員に伝えた。 また、アンケートの結果、高評価であった 8 科目に対し「受講生が選ぶベスト授業賞」が学長から授与された。一方、評価の低い授業に対しては「授業改善計画書」の作成を義務付け、これを学内掲示した。</p>

	<p>以上、授業アンケート結果を踏まえ、各々授業改善へ取り組むよう学長から指示がなされた。</p> <p>②教員による相互授業見学及び意見交換会の開催 相互授業見学は、平成 28 年 10 月 10 日から 10 月 21 日の期間において実施した。FD 委員会が見学授業を指定し、全教員に見学を義務付けた。 また、見学後は、全教員から「見学レポート」を提出させ、「見学レポート」に基づいて、全教員による「授業見学意見交換会」を平成 28 年 10 月 16 日に開催し、個々の授業改善に繋げた。</p> <p>③FD 講演会の開催 ■開催日：平成 28 年 6 月 22 日 15:00～ 講 師：阿部雅明経済学部長 テーマ：外部研修「4 つのポリシーのブラッシュアップ・ワークショップ」(地域科学研究会・高等教育情報センター主催)への参加報告 参加数：20 人 ■開催日：平成 29 年 1 月 18 日 16:30～ 講 師：吉本康文氏 新潟工科大学教授・FD 委員長 テーマ：「新潟工科大学の FD 活動」 参加数：20 人</p>
(2) SD (スタッフ・ディベロップメント) 研修の推進	<p>①各種レベルアップ研修への職員派遣 ストレスチェック実施者養成研修 ■開催日：平成 28 年 10 月 17 日 10:00～ 参加数：1 人 (医務室担当者)</p> <p>②新潟工科大学との合同 SD 研修会 ■開催日：平成 28 年 8 月 24 日 10:00～11:00 テーマ：「計算書類の読み方」「財務状況の見方について」 参加数：31 人(うち新潟工科大学参加者 13 人)</p>

#### 1. 4 施設設備

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1)キャンパス・アメニティーの改善	<p>①「教育研究等環境整備に関する方針」を定めた。</p> <p>②インターネット環境を整備する上で、平成 29 年度において、学外への回線容量を拡大することを決定した。</p>

(2)地域への施設開放	<p>地域に根ざす開かれた大学として、本学施設の利用について、広く地域に呼びかけているが、平成 28 年度は、延べ 7,100 人の学外者が本学の施設を利用した。以下、施設別利用日数の集計結果。</p> <p>【開放施設】</p> <p>①体育館            利用日数：延べ 25 日  ②テニスコート    利用日数：延べ 166 日  ③講堂 3 日  ④教室他 21 日  ⑤駐車場 37 日</p>
-------------	--

## 2 経済学部

### 2. 1 教 育

事業項目	平成 28 年度実施内容											
(1)教育研究体制の改革	<p>①地域活性化に貢献する学部・学科・コースの検討  「学長・副学長等会議」において、地域活性化に貢献する学部・学科・コースの再編成を検討し複数案を立案した。平成 29 年度の継続案件とした。</p>											
(2)教育内容・方法の改善	<p>①学修時間増の取組  「学生に対する授業アンケート」による自学自習時間の実施状況結果は、一般講義科目において春学期 46%（前年度 44%）、秋学期 56%（前年度 45%）の学生が予習・復習に積極的に取り組んでいた。一方、どちらともいえないとの回答は、春学期 35%（前年度約 35%）及び秋学期 31%（前年度約 35%）であった。また、取り組んでいないと回答した学生は春学期 19%（前年度 22%）、秋学期 13%（前年度 19%）であり、いずれも、前年度に比し、自学自習に取り組む学生が増えた。</p> <p>②教育課程の体系的の明示  従来の「履修モデル」や「科目ナンバリング」に加え、「カリキュラム・ツリー」を作成し、今まで以上に科目体系をわかりやすくした。これにより、本学教育課程における各授業科目の体系的な位置付けと科目間の関連性の明示方法が確立した。</p> <p>③学習達成度把握等の検討  「GPA 制度」の規程化を検討し案を作成した。</p> <p>④地域課題に取り組む教育の実践  「ゼミナール」を中心に、実際に現地に赴き学習するフィールドワーク形式の授業を延べ 49 の授業で実施（前年度は延べ 19 授業。）した。</p> <p>⑤地域おこしで活躍する特別講師の招聘  「地域づくり」や「地域活性化」などについて、自ら課題を発見し課題解決に取り組むことのできる人材を育成する目的で、まちづくりや地域おこしで活躍する特別講師を招聘し、特別授業を実施した。市民にも無料公開した。</p> <table border="1" data-bbox="539 2029 1417 2051"> <thead> <tr> <th data-bbox="539 2029 683 2051">実施日</th> <th data-bbox="683 2029 834 2051">科目名</th> <th data-bbox="834 2029 1182 2051">特別講師</th> <th data-bbox="1182 2029 1417 2051">特別講義タイトル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				実施日	科目名	特別講師	特別講義タイトル				
実施日	科目名	特別講師	特別講義タイトル									

		H28. 6.30	まちづくり 基礎	山崎 亮 氏 東北芸術工科大学教授 コ ミュニティデザイン学科長 スタジオ・L 代表 会田 洋 氏 柏崎市長	柏崎の活性化と産 大生の役割 (対談形式)
		H28.10.18	アグリビジ ネス論	宮治 勇輔 氏 株式会社みやじ豚 代表取 締役社長 特定非営利活動 法人 農家のこせがれネッ トワーク 代表理事	一次産業を、かっこ よくて・感動があっ て・稼げる 3K 産業 に！
		H28.10.21	地域振興論	島 康子 氏 Yプロジェクト株式会社 代表取締役	大間のゲリラ的な まちおこし ― マ グロ女子の挑戦
	<p>⑥国内協定締結大学との交流</p> <p>大学間連携協定を締結している大正大学学生の地域活性化報告会 （「柏崎 豊かな自然PRを」）を、平成 28 年 10 月 25 日、本学を会場 に開催した。</p>				
(3) リメディアル教 育の改善	<p>①基礎ゼミナールの強化</p> <p>基礎科目の「基礎ゼミナール」「生活数学」等において、大学生とし ての基礎知識やプレゼンテーション能力習得のための教育に取り組ん だ。</p> <p>②入学前教育の実施及び</p> <p>新入生が大学での学修に円滑に移行できるよう、平成 29 年度日本人 入学予定者（入試合格者）に対する入学前教育（外部専門業者への委託 契約による。）を実施した。</p>				
(4)中途退学者の予 防	<p>①授業欠席者ケアの実施</p> <p>「学内授業出欠管理システム」により、連続欠席学生を早期発見し、 担任教員またはCLA（キャンパスライフ・アドバイザー）が、欠席理 由を確認し必要な指導を行った。また、保護者との「個別面談会」等 においても授業出欠情報を提供し、欠席の多い学生のケアに取り組んだ。 各学期の始めには保護者にもその学生の時間表を送付した。</p>				

用語：「カリキュラム・ツリー」

入学から卒業までの各年次における学びの流れをツリー型のマップでわかりやすく図示したもので、本学で  
の学びを俯瞰できる。平成 29 年度キャンパスガイド「NSUnavi2017」から、これを掲載する。

用語：「GPA」（文部科学省ホームページより）

アメリカで行われている学生の成績評価方法の一種。その一般的な取扱いの例とされているものは、以下の  
とおり。

1. 学生の評価方法として、授業科目ごとの成績評価を 5 段階（本学は S、A、B、C、D）で評価し、それ  
ぞれに対して 4、3、2、1、0 のグレードポイントを付与し、この単位当たり平均（GPA、グレード・ポイ  
ント・アベレージ）を出す。
2. 単位修得は C でも可能であるが、卒業のためには通算の GPA が 2.0 以上であることが必要とされる。
3. 3 セメスター（1 年半）連続して GPA が 2.0 未満の学生に対しては退学勧告がなされる。ただし、突然  
勧告がなされるわけではなく、学部長等から学習指導・生活指導等を行い、それでも学力不振が続いた場  
合に退学勧告となる。

なお、このような取扱いは、1 セメスターに最低 12 単位、最高 18 単位の標準的な履修を課した上で成  
績評価して行われるのが一般的である。

## 2. 2 研 究

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1)地域に根ざした研究の促進	①柏崎研究所 柏崎を経済、政治、社会、歴史、文化、民俗等の多方面から調査研究し、「柏崎学」の中心拠点を目指す柏崎研究所を平成 28 年 4 月 1 日に設置した。
(2)紀要の発行	①経済学部紀要第 47 号 を平成 28 年 7 月に発行した。 ②経済学部紀要第 48 号 を平成 29 年 1 月に発行した。
(3)研究業績等の公開	平成 28 年度自己点検・評価において、平成 18 年以降の研究業績をまとめ、ホームページ上に公開した。
(4)公的研究費の獲得	①平成 28 年度科学研究費助成事業(科研費) ・他大学採択分科学研究費の本学研究分担者配分金 ア. 高橋 眞一 名古屋大学分  ②科研費講習会及び添削指導 科研費採択増に向け以下の事業を行った。 ア. 7 月 6 日 科研費講習会 「科研費の採択と活用につながる 3 つのアプローチ」開催 教員 21 人受講 イ. 10 月科研費申請用研究計画書の添削・アドバイス指導 添削受講者数 4 人  ③内田エネルギー科学振興財団助成金 ア. 技術系グループ 代表 藤井 信行 「エネルギーと環境問題」のタイトルに関連した科学技術知識普及に関する講演 イ. アブドゲニィ アブドレヒミ 市民のためのサイエンス教室「エネルギーと環境」 ウ. モンゴル文化研究所 「第 1 回モンゴル文化フェスタ in かしわざき」
(5)国際的研究の推進	附属東アジア経済文化研究所を廃止し、つぎの研究所を設置した。 (開設は平成 28 年 4 月 1 日)  ①モンゴル文化研究所 本学と関係の深い「モンゴル」についての言語、文化、産業等について、日本のモンゴル文化研究や国際交流の拠点を目指し活動した。 ア. 「第 1 回モンゴル文化フェスタ in かしわざき」(平成 28 年 10 月 1 日、2 日) モンゴル文化講演会(講師 3 名)、モンゴル相撲大会、モンゴル民族音楽・民族衣装ショー、ゲル展示、モンゴル料理試食会 イ.モンゴル研究蔵書整備(本年度約 4,000 冊) ウ.モンゴル研究資料データベース構築 エ.高柳雪まつり「YOU・悠・遊」地域交流活動(平成 29 年 2 月 25 日～26 日)モンゴル写真展、ゲル展示、民族衣装ショー

## 2. 3 学生への支援

事業項目	平成 28 年度実施内容																																																																		
(1)学生行事・学生活動支援	<p>①学園祭など学生主催行事に対する支援</p> <p>ア. 学友会・学生行事実行委員会ミーティングにおいて、学生課職員が学生行事等の企画に対する指導助言を行った。(月に 4 回実施)</p> <p>イ. 学園祭の企画・運営について、新規企画や集客を図るための方策、広告・協賛金依頼方法など指導を行った。</p> <p>ウ. 学生企画の「スポーツ大会(バドミントン)」や「クリーンデー 柏崎 in 産大」、「クリスマスパーティー」などに助言を行った。</p> <p>②公認部・サークル活動の活性化</p> <p>ア. 新入生学外合宿研修において、先輩部員によるサークルの紹介を実施するとともに、学生課にて新入生に対し「課外活動見学会の希望調査」を実施し、新入生に部・サークル加入を働きかけた。</p> <p>イ. 新年度ガイダンス及び 1 年次必修科目「基礎ゼミナール」の授業時に部活動・サークル活動の意義を説明した。</p> <p>③学生相談の充実</p> <p>ア. 学生課医務室職員(看護師・保健師)が、健康相談及びメンタルヘルスの対応を実施した。</p> <p>イ. 学校医(精神科医師 1 人)と専門医(心身医療科医師 1 人)によるカウンセリングを毎月 3~5 回実施した。</p> <p>ウ. 基礎ゼミ担任と C L A 協働で学生生活個別面談を実施した。</p> <p>エ. 全教員が「オフィスアワー」を実施した。</p> <p>オ. 「学生生活アンケート」や「学生意見箱」により学生からの意見・要望収集を行った。投書に対しては学生掲示板に回答を掲示した。</p>																																																																		
<p>(2)経済的支援及び学費軽減</p> <p>※外国人留学生については「6. 留学生支援」を参照。</p>	<p>①経済的理由により修学困難な学生の授業料を軽減した。</p> <p>②人物・学業成績優秀な学生の授業料を軽減した。</p> <p>③スポーツ・文化活動で活躍する学生の授業料を軽減した。</p> <p><b>【表】平成 28 年度に学費軽減を受けた学生数</b></p> <table border="1" data-bbox="550 1473 1410 1944"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">平成 28 年度の学年→</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>1 年</th> <th>2 年</th> <th>3 年</th> <th>4 年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">経済的理由</td> <td>授業料半額減免</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>授業料全額免除(4年間)</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">学業成績優秀者</td> <td>授業料半額減免(4年間)</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免(2年間)</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免(1年間)</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">スポーツ・文化活動</td> <td>授業料全額免除(4年間)</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免(4年間)</td> <td>14</td> <td>20</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免(2年間)</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免(1年間)</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>資格特待</td> <td>授業料半額減免</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑤大学契約借上げアパートを学生に安価で提供し、経済的負担軽減を行った。</p>			平成 28 年度の学年→						1 年	2 年	3 年	4 年	経済的理由	授業料半額減免	9	4	8	5	授業料全額免除(4年間)	2	4	1	5	学業成績優秀者	授業料半額減免(4年間)	6	5	—	—	授業料半額減免(2年間)	1	3	—	—	授業料半額減免(1年間)	1	5	5	3	スポーツ・文化活動	授業料全額免除(4年間)	8	5	8	2	授業料半額減免(4年間)	14	20	—	—	授業料半額減免(2年間)	13	12	6	5	授業料半額減免(1年間)	0	1	1	4	資格特待	授業料半額減免	0	0	0	—
		平成 28 年度の学年→																																																																	
		1 年	2 年	3 年	4 年																																																														
経済的理由	授業料半額減免	9	4	8	5																																																														
	授業料全額免除(4年間)	2	4	1	5																																																														
学業成績優秀者	授業料半額減免(4年間)	6	5	—	—																																																														
	授業料半額減免(2年間)	1	3	—	—																																																														
	授業料半額減免(1年間)	1	5	5	3																																																														
スポーツ・文化活動	授業料全額免除(4年間)	8	5	8	2																																																														
	授業料半額減免(4年間)	14	20	—	—																																																														
	授業料半額減免(2年間)	13	12	6	5																																																														
	授業料半額減免(1年間)	0	1	1	4																																																														
資格特待	授業料半額減免	0	0	0	—																																																														

<p>(3)学外団体との連携</p>	<p>①スポーツ競技団体や文化団体との連携支援 部活動（水球部、卓球部、ライフセービング部、バスケットボール部、芸術文化部、写真部、茶道部、書道部、吹奏楽部）と地域の団体や高校等との合同練習や連携活動を支援した。</p> <p>②父母の会及び校友会との連携支援 ア．父母の会総会及び支部総会開催時に、学生の修学状況等を保護者に報告した。また、保護者向けの「学生就職ガイダンス」を実施した。 イ．校友会会報の制作に協力した。</p> <p>③新潟工科大学との交流支援 柏崎市民有志による2大学新入生合同歓迎会の企画及び運営を校友会学生と教職員が協働で行った。</p>
<p>(4)就職支援</p>	<p>①就職希望率 90%以上の維持と就職率 100%の達成（日本人学生）。 個別指導を徹底することにより、就職希望率を 94.7%とし、目標値を 4.7 ポイント上回ることができた。また、4 年連続で就職率 100%を達成した。</p> <p>②柏崎・刈羽管内企業へのインターンシップの奨励と地域に定着する就職者数の増加。 授業科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」の受講者を対象に、柏崎・刈羽地域事業所見学2社（ブルボン、J A 柏崎）と地元5事業所（ブルボン・柏崎信用金庫・J A 柏崎・泚山会・柏崎市）の人事担当者を招いてパネルディスカッションを実施した。 平成 28 年度の地域企業就職率は 23.1%となり、前年度の 16.7%を 6.4 ポイント上回ることができた。</p> <p>③年度毎の学生データの一元化整備による在学生・卒業生に対する就職支援の効率化（複数年計画）。 本学第 1 期卒業生からの全卒業生進路データの一元化を完了した。</p> <p>④学生の付加価値づくりとして各種講座を開講（資格検定等支援） 特に簿記講座において、授業科目と連動した支援体制を構築し、受検者及び合格者の増加を図った。授業科目の簿記科目を全員履修の指定科目とし全体の能力の底上げを図るとともに、簿記担当教員との連携により簿記講座へ誘導し、より多くの学生の受講を促した。 日商簿記 3 級受講者 21 名の内、12 名が受験し 7 名が合格した。合格率は 58.3%となり、全国平均の 3 級合格率 39.14%（第 100 回検定～第 145 回検定）を 19.16 ポイント上回ることができた。また、これまでの本学受検者の過去 5 年（平成 23 年度～平成 27 年度）の平均合格率 14.3%との比較では、44 ポイント改善した。</p>

<p>学生の資格・検定等の取得支援を以下のとおり実施した。</p> <p>1. 対策講座の実施</p> <p>①日商簿記検定3級講座 全3回(延118コマ) ...受講者数 延 21人  ②経営学検定講座 全2回(延12コマ) ...受講者数 延 9人  ③MOS講座 全4回(延40コマ) ...受講者数 延 13人  ④TOEIC対策講座 全1回(延10コマ) ...受講者数 延 3人  ⑤公務員講座 全1回(13コマ) ...受講者数 延 36人</p> <p>2. 検定試験の学内実施</p> <p>①中国語検定 全3回 ...受検者数 延 5人  ②経営学検定 全2回 ...受検者数 延 8人  ⑤ERE経済学検定 全2回 ...受検者数 延 9人</p> <p>3. 資格等取得奨励奨学金の給付</p> <p>10人に奨学金を給付した。給付を受けた学生の内訳は、「日商簿記検定」2級1人、「日商簿記検定」3級6人、「日商PC検定」2級2人、「経営学検定」初級1人だった。</p>
---

## 2. 4 留学生支援

事業項目	平成28年度実施内容
(1)学習・生活支援	<p>①学生チューターによる生活・学習指導  チューター8人(日本人学生4人・ベトナム留学生2人・モンゴル留学生1人)が、週1回、チューター・ミーティングを行い、留学生との交流活動及び生活指導等の計画を立て実施することを支援指導した。</p> <p>②教職員による生活・修学相談  1年次、2年次の「基礎ゼミナール」において、担任教員とCLAが留学生の個別面談を実施し、生活面と修学面の指導を行った。ゼミナール担当教員、学生課職員等が留学生の相談窓口となって、個別相談にも随時対応した。</p> <p>③留学生の生活現状調査  留学生に月2回の「生活現状報告書」の学生課提出を義務付け、留学生の動静の確認、重要事項の周知、問題点の早期発見等に努めた。</p> <p>④留学生ガイダンスでの生活指導  在学の留学生には4月に、新入学の留学生には入学時期に合わせて、「留学生ガイダンス」を実施した。</p> <p>⑤日本語補習授業の実施  日本語能力不足の留学生に対し、学生チューターによる日本語補習授業を実施した。  春学期：4月18日～6月末日、週3日、6人受講  秋学期：10月3日～12月23日、週1日または2日6人受講</p> <p>⑥日本語能力検定試験受験の奨励  年2回行われる日本語能力検定試験の受験を希望する留学生に対し、</p>

	<p>大学で受験申込を代行した。          春学期：38人受験 N1 検定 2年1人、3年1人、4年1人          N2 検定 1年1人、2年1人、3年1人合格          秋学期：30人受験          N2 検定 3年1人、4年1人合格。</p> <p>⑦入国管理局に対する在留関連申請の取次業務          (財)入管協会が実施する「申請取次と出入国事務研修」を修了した学生課職員が、在留資格関係の取次業務を行った。</p>
(2)経済的支援	<p>①私費外国人留学生授業料減免          留年者を除く私費外国人留学生で、経済的理由による減免申請の許可が認められた留学生 113人の授業料を 40%減免した。</p> <p>②日本語能力試験合格者 (N1・N2) の学費減免          2016年第一回日本語能力試験 N1、N2 に合格した外国人留学生の以後の学期の学費をそれぞれ減免した。なお、減免率は、授業料において N1・N2 合格者とも 50%減免。教育充実費において N1 合格者全額免除、N2 合格者 40%減免である。          2016年第二回日本語能力試験からは減免方式を廃止し、給付方式に変更することを周知した。</p> <p>③私費外国人留学生への学習支援金を給付          2、3年生において、他の奨学金を受給していない留学生を対象とし、申請のあった留学生のうち成績優秀者(評価係数により審査)上位1人に対して、学習支援金を給付した。</p> <p>④新入学留学生全員に住居費補助及び通学費等補助を給付          日本での学習及び生活を円滑に始められるようにするため、新入学留学生全員に住居費補助と通学費等補助を給付した。</p> <p>⑤外国人留学生向け宿舎の情報提供          アパート物件情報の収集時に、留学生入居の可否を問い合わせ、42件の入居可のアパート情報を新入学の留学生に提供した。</p> <p>⑥資格外活動の法令順守指導およびアルバイト求人確保          資格外活動についての法令順守指導をガイダンスや掲示で行うとともに、年2回の「アルバイト届」提出時にも重ねて指導した。また、留学生の日本語能力に応じたアルバイト求人確保に努めた。</p>

(3)各種交流支援

①日本人学生と留学生との交流支援

新入留学生歓迎会（観桜会）、県内研修旅行（新潟市マンガ・アニメ情報館、新潟県立歴史博物館）を実施し、日本人学生と留学生との交流を図った。

②地域社会及び地域の小中学校との国際交流支援

留学生が地域の文化活動団体の行事や小・中学校における総合学習授業などに積極的に参加し、相互交流を促進するよう支援した。

【地域における国際交流の実績】

月日	派遣先	内容	参加留学生数
6月9日	高田コミセン	ベトナムの紙芝居、民族衣装の披露	3人
10月4日	中鯖石コミセン	ふるさと講演会（モンゴル音楽披露）	6人
11月12日	柏崎地域国際化協会	世界のスイーツ	1人
11月18日	刈羽小学校2年	児童との交流会	2人
1月19日	北鯖石小学校全学年	グループ毎に交流会	5人
2月24日	北鯖石小学校3年	児童の発表を聴き感想を述べる	1人
3月15日	刈羽小学校2年	児童との交流会	2人
11月20日	刈羽小学校全学年	国際セミナー（児童との交流会）	3人

③留学生懸賞論文応募指導

柏崎中央ロータリークラブ主催の留学生懸賞論文の募集が行われ、本学より11人が応募した。論文のテーマは「留学生から見た柏崎」。佳作1人、努力賞2人、参加賞8人。

## 2. 5 学生募集及び入学試験

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1)地域（新潟県内）からの学生確保	<p>①オープンキャンパスの充実            ア. 7月から10月にかけて5回開催した。            イ. 在学生による本学のプレゼンテーションや大学施設案内により、本学の魅力や強み、学生の成長度を参加者にアピールした。            参加者アンケートの結果では、興味・関心、良かった点として1位に大学・学科概要説明、3位に施設見学があげられた。            ウ. オープンキャンパス参加者に学園祭模擬店チケットを配付し、本学へのリピート来校を図った。</p> <p>②高校訪問等の内容・方法の改善            ア. 教職員による高校訪問や進学説明会において、教員と事務職員それぞれの観点から、本学の教育内容や学生支援策、入試制度等について分かりやすく説明した。            イ. 学生個別面談結果を有効活用し、訪問先高校出身学生の現況を高校教員に報告し、「人づくり大学」「面倒見大学」をアピールした。学生個別面談結果の分析と現況報告の方法について改善した。            ウ. 出張講義の利用を促し、本学と各高校の関係強化及び高校生の本学への関心向上を図った。出張講義・体験授業は44回で前年度と同数だった。</p>
(2)スポーツ推薦入試による学生確保	<p>①強化指定部の学生募集            スポーツ推薦入学試験において30人の確保を目標に学生募集を行ったところ、入学者は19人だった。しかし、その他の入試区分において強化指定部の学生を確保することができた。</p>
(3)外国人留学生の確保	<p>①海外留学生入試            ア. 海外入試において、長年関係を築いてきた中国内モンゴル自治区及びモンゴル国を重点募集地域として募集活動を行い、秋学期と春学期を合わせて、安定的に留学生を受入れた。            イ. 覚書締結校との情報交換を密にして、留学生受入れ増を図り、業務委託料締結校からの入学者を秋学期と春学期合わせて、前年度より若干増加させた。</p> <p>②国内在住留学生入試            留学生募集業務委託契約者と協働して国内在住留学生入試を実施し前年度並みに入学者を確保した。</p> <p>この結果、春学期入学試験及び秋学期入学試験あわせて、入学定員の30%弱の目標に対し春学期は国内外合わせて38人が入学し、27%とほぼ目標を達成した。</p>
(4)社会人学生の確保	<p>①聴講生等への働きかけ            聴講生や科目等履修生、公開講座参加者に、社会人AO入試、長期履修制度、学費減免等を宣伝し、学び直しを勧めたが入学者に繋げることはできなかった。</p>

<p>(5) ホームページの改善</p>	<p>①入試情報ページの改善          大学ホームページのリニューアルに伴い、「受験生向け」の特設サイトを新設した。          このサイトには、入試情報のほかに、各学科の説明や本学学生の地域との関わりの紹介、資格取得や就職情報、クラブ活動紹介や卒業生のコメント、大学の年間行事などの情報を載せた。</p>																								
<p>(6) 学生募集目標値の達成状況</p>	<p>(表) 平成 29 年度春学期入学試験の募集目標と結果 (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="531 504 1422 801"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>附属高校 (全入試区分に亘る。)</td> <td>30</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>AO+指定校+自己推薦+一般入試+センター利用入試</td> <td>40</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>スポーツ推薦入試</td> <td>30</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>国内在住留学生入試</td> <td>20</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>海外留学生入試</td> <td>20</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>社会人入試</td> <td>若干名</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td>140</td> <td>101</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	結果	附属高校 (全入試区分に亘る。)	30	17	AO+指定校+自己推薦+一般入試+センター利用入試	40	27	スポーツ推薦入試	30	19	国内在住留学生入試	20	22	海外留学生入試	20	16	社会人入試	若干名	0	合計	140	101
	目標値	結果																							
附属高校 (全入試区分に亘る。)	30	17																							
AO+指定校+自己推薦+一般入試+センター利用入試	40	27																							
スポーツ推薦入試	30	19																							
国内在住留学生入試	20	22																							
海外留学生入試	20	16																							
社会人入試	若干名	0																							
合計	140	101																							

## 2. 6 地域貢献・生涯学習

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1)地域連携センター事業	<p>①地域の活性化を計画的・組織的に推進するために従来の「生涯学習センター」を廃止し、「地域連携センター」を設置した。(平成 28 年 4 月 1 日付け)</p> <p>②地域活性化事業の推進          6 月 14 日に柏崎市高柳町のかやぶき集落荻ノ島と「共に支え合う域学連携に係る協定」を締結した。本学学生は持続的な農の里づくりに係る活動と相互の交流に係る活動を行う。          また、本学と柏崎信用金庫との連携に関する協定について両者で検討し、相互の発展に資するとともに、柏崎市及び刈羽村を中心とした地域と地域産業に寄与することを目的として連携することを確認した。平成 29 年度に協定締結を目指すこととした。</p> <p>③生涯学習事業の推進          正規授業を一般に開放する「聴講講座(有料)」を実施し、地域に学びの場を提供した。          春学期は 86 講座を開放して 28 講座に聴講があり、秋学期は 77 講座を開放し 24 講座に聴講があった。柏崎・刈羽以外の地域に対する聴講講座案内は、ダイレクトメール、ホームページ掲載等により行い、併せて「新潟産業大学生涯学習友の会」への加入勧誘を図り、会員数は平成 29 年 3 月末時点で 29 人となった。また、平成 28 年 10 月 2 日の学園祭開催時に大学キャンパスにて毎年恒例の「友の会意見交換会」を開催した。          ア. 聴講講座(春)          16 の講座(1 講座 15 回)に延べ 51 人の聴講生があった。          イ. 聴講講座(秋)          24 の講座(1 講座 15 回)に延べ 41 人の聴講生があった。          *「TOEIC 受検対策聴講講座」のみ 10 回授業。</p> <p>④柏崎市との連携講座実施          柏崎市が主催する「かしわざき市民大学」等において、市民や地域社会の文化的活性につながる講座を開講した。(8 講座)</p> <p>⑤その他の公開講座実施          ・「公益財団法人 内田エネルギー科学振興財団」の助成金による講座を開講した。(9 講座)          ・「上越ケーブルビジョン」で、1 講座を開講した。</p> <p>⑥地域活動への参加          ・教員による講演会 29 回、教員やゼミナールのイベント参加 22 回、学生のイベント参加 12 回など、地域や学外団体からの要請に積極的に協力した。          ・地域連携センターが窓口となり、地域の諸団体に学生ボランティアを派遣した。</p>
(2)青少年国際経済人育成事業(新潟県ロータリークラブ寄)	<p>①学生によるラジオ番組放送          毎月 3 回金曜日の 19 時から 20 時の時間帯で、本学放送部の学生部員の企画・制作・出演による生番組を放送した。</p>

付金原資)	<p>②「地球くらぶ」(国際的教養体験イベント)の開催  中国・モンゴル・ミャンマー・コスタリカ・ベトナムの留学生が講師となつて、児童クラブに通う小学生を対象に、外国文化や言語などを楽しく学ぶイベントを実施した。</p> <p>・実施日  8月22日(月)      9:15~11:30      中通児童クラブ 参加児童9人  13:00~15:00      北鯖石児童クラブ参加児童28人</p> <p>③「大学生、高校生の情報発信力向上講習会及び演習プログラム」の実施  主に大学生を対象に、一部授業において、デザインソフトの操作法や地域活性化につながるコンテンツ制作に関する内容の講義、演習を実施した。また、大学地域連携活動に係るチラシ、パッケージ等のデザイン依頼を受けた学生たちに個別指導を実施した。</p> <p>地域に発信した制作物は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「産大生と地域のかけ橋 ローカレッジ」Vol.4</li> <li>・「産大生と地域のかけ橋 ローカレッジ」Vol.5</li> <li>・柏崎市議会「議会報告会」ポスター、チラシ</li> <li>・柏崎男女共同参画推進市民会議リーフレット「わたしらしく あなたらしく」</li> <li>・大学地域コラボ商品「良寛と貞心尼の歌物語」パッケージ、チラシ</li> <li>・柏崎鮭のふるさと公園「命をつなげ!谷根川の鮭物語」ポスター、チラシ</li> </ul> <p>④地域通貨事業の推進  様々なボランティア活動を行った学生に地域通貨を配付し、柏崎市内の提携商店での購買に繋げた。また、「まちかど研究室」に稲作と風輪通貨に関する説明パンフレットや活動写真を展示することにより、市民への本事業の周知に努めた。さらに、地域通貨事業の原資となる米菓等をえんま市で販売し商店街活性化の一助とした。</p> <p>⑤海外・国内研修の支援  外国文化視察研修で韓国とアメリカへ、日本文化視察研修で京都を訪問した。訪れた場所で直接文化を体験し、文化産業及び経済産業の現状を視察した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国文化経済視察研修(アメリカ)(9月15日~21日)  7日間の研修に、学生等6人が参加し、サンフランシスコを巡った。ゴールデンゲートブリッジ等の観光地やシリコンバレーにあるコンピュータ企業、スタンフォード大学等を視察した。</li> <li>・外国文化経済視察研修(韓国)(9月15日~21日)  5日間の研修に、学生等8人が参加し、ソウル、春川、仁川、江陵等の訪問を通じて韓国の大都市と地方都市、山、寺を体験した。韓国の観光産業、地域産業の現状を視察することができた。</li> <li>・日本文化経済視察研修(京都)(9月2日~21日)  4日間の研修に、学生等23人が参加し、文化遺産や文化施設を視察した。</li> </ul> <p>⑥「大学は美味しい!!フェア」への参加(5月26日~31日)  新宿高島屋で開催された『大学は美味しい!!』フェアに教員5人、学生23人が参加し、大学と地域商店との共同開発商品を販売し、本学の活動及び立地する柏崎地域について広くアピールした。</p>
-------	---

<p>(3) 柏崎市・新潟産業大学・新潟工科大学連携協定に基づく取り組み</p>	<p>① 平成 28 年度大学・地域連携推進事業を受託</p> <p>「柏崎の観光の魅力の発見・発信のための商品企画と調査研究」(金教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「良寛と貞心尼の歌物語」クッキーセットを柏崎市・出雲崎町・長岡市の観光施設・道の駅・売店等で販売し、良寛と貞心尼の知名度向上に繋げた。</li> <li>・株式会社柏崎タクシー旅行センターの協力を得て「良寛と貞心尼の歌物語ツアー」観光プランを企画した。</li> <li>・谷根川の鮭の遡上と放流について観光用のポスターとチラシを作成し、柏崎市・長岡市・出雲崎町・魚沼市の観光施設に配置した。</li> <li>・江戸後期に中国から漂着した木の杭を伝えるモニュメントを柏崎市の椎谷海浜公園に設置する計画を立案した。</li> </ul> <p>「空き店舗活用事業」(新潟産業大学・新潟工科大学共同受託)</p> <p>両大学学友会連携イベント、ゼミ・団体によるプロジェクト、市民向け講座の3つを柱に以下の活動を行った。また、これらの活動を 8 月 22 日に新潟市で開催された「地(知)の拠点大学による地方創生シンポジウム」において担当学生が報告し、高い評価を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「スタンプラリー&amp;オリエンテーリング@商店街」</li> <li>・「風輪通貨」の流通と「風輪米」生産風景のパネル展示</li> <li>・「まちかど研究室 café」</li> <li>・柏崎市の地域経済に関する調査・研究</li> <li>・書道とふれあいの会</li> <li>・「ほんちょうマルシェ」への出店</li> <li>・「グリーンバード」(地域の清掃活動)</li> <li>・市民向け講座</li> <li>・「えんま市」での出店</li> <li>・ウインターイルミネーション</li> <li>・スペース貸し</li> </ul> <p>② ぎおん柏崎まつり参加</p> <p>7 月 25 日、ぎおん柏崎まつり二日目の「たる仁和賀パレード」に、「新潟産業大学御輿」を出し、学生・教職員計 50 人が参加した。</p> <p>③ 柏崎市の 28 の委員会等に委員を派遣した。</p>
<p>(4) 水球のまち柏崎への協力体制</p>	<p>① ブルボンウォーターポロクラブ事務局への大学施設の賃貸。</p> <p>② 青柳勸経済学部助手が同クラブの選手兼任監督。</p>
<p>(5) 新潟県委託調査</p>	<p>① 平成 28 年度県内就職につながる学びの場づくり支援事業」の受託</p> <p>「新潟の産業・企業を知る講座」を実施した。事業は、座学とフィールドワークで構成し、座学は中越・下越地方を中心とした多様な地域産業界や企業、行政のエキスパートを講師として招聘し、事前学習として開講した。座学で得た基礎知識を基に、フィールドワークも実施し、産業の現場を体験し、意見交換等を行った。</p>

## 2. 7 国際交流

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1)地域における国際交流	<p>①小中学校等への外国人留学生派遣 2. 4 留学生支援 (3) ②に詳細を記載。</p> <p>②「日本語学習支援者の心得」講習に参加 9 月 25 日 (日) に「日本語学習支援者のための基礎講座」柏崎国際化協会主催の行事に本学チューター3 人と事務職員 1 人が参加した。</p>
(2)海外学術交流協定校との交流	<p>①短期留学生受入 黒龍江大学 (中国) 1 人、哈爾濱師範大学 (中国) 1 人、集美大学 (中国) 5 人、明道大学 (台湾) 1 人、計 8 人の交換留学生を受け入れた。</p> <p>②短期セミナー生受入れ 春学期に 2 人 (中国 2) の短期セミナー生を受け入れた。</p>

### 3 大学院経済学研究科

#### 3. 1 教育及び研究指導の改善

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1)教育研究方針等の自己点検	①研究科委員会にて新潟産業大学大学院学則第一条（目的）を検討し、より具体的な目的へと改めた。 ②大学院全体の自己点検・評価を行い、その結果を研究科委員会にて検討し、翌年度以降の改善に繋げた。
(2)ファカルティ・ディベロップメントの推進	①FD活動の一環として研究報告会を開催した。 日 時：平成 28 年 11 月 16 日(水) 16：25～ テーマ：「変動相場制下における購買力平価の実証分析」 報告者：橋本次郎 教授 大学院担当教員に加え学部教員も研究報告会に参加した。 ②教員相互の授業見学の実施 「開発経済学特論Ⅰ」の授業を大学院担当教員 5 人で見学した。見学者により報告レポートが作成され、研究科長が結果を検討し、研究科委員会にて議論した。 ③大学院授業改善アンケートの実施 院生の意見や要望の授業への反映、更なる授業改善のために、演習を除く全科目について授業改善アンケートを実施した。後日、研究科長による大学院生へのインタビューを実施し、その内容を研究科委員会において報告し、議論した。

#### 3. 2 学習・研究の支援

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1)基礎学力養成支援	①院生の経済学・経営学検定試験受験のための受験料を支援し、院生全員に年 1 回の受験を促した。担当教員が作成した模擬試験受験等の対策を通じ、院生の経済学、経営学の専門知識の習得、実力向上を図った。 ②院生の文献検索を助けるため、文献複写・相互貸借の費用の支援を行った。 ③院生の調査研究のための通信費補助を行い、修士論文作成の費用負担を軽減することを通じ、修士論文の完成度を高めた。
(2)院生指導室の整備	院生への個別指導を充実させるため、統計処理ソフト（Eviews8）の利用を促進した。

#### 3. 3 教育の成果

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1)学位授与	経済学研究科経済分析・ビジネス専攻修士課程を 3 人が修了し、修士（経済学）の学位を授与した。

#### 3. 4 国際交流

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1)国際交流の明確化	中国の内蒙古財経大学との交流基本協定書及び交換留学に関する覚書締結に向け、留学生受入れ準備のための条件整備を研究科委員会にて検討した。

## II 新潟産業大学附属高等学校

### 1 概況

前年度までの部活動での活躍や大学進学実績をさらに高めるために、今年度も「部活で燃える！進路で輝け！」を合言葉に掲げ、少子化に伴う適齢人口の減少や、教育の多様化、個性化に対応し、地域に信頼され、期待される新潟産業大学附属高等学校を目指した。部活動においては卓球部が県高等学校総合体育大会学校対抗戦女子で7連覇を果たし、陸上部は、女子新潟県高等学校駅伝大会で優勝し、全国高等学校駅伝競走大会に出場するなど輝かしい結果を残した。

進路においては、7年連続で国公立大学への合格や、一般受験で難関大学に合格するなど一般受験での合格が大幅に増加し、確かな学力をつけた。

また、募集活動や広報活動では数多くの中学校訪問を行い、高校説明会の度に、当校の特色・魅力や教育成果などを、地域に深く理解していただけるよう懸命に努力した。

### 2 部活動実績及び進学実績

事業項目	平成28年度実施内容
(1)部活動実績（国際大会・全国大会レベルに挑戦）	<p>県高等学校総合体育大会に181人（昨年度173人）が出場し、北信越高等学校体育大会（ゴルフは関東大会）に103人（昨年度60人）が出場した。インターハイ等全国大会出場者数は延べ52人（昨年度30人）に達した。</p> <p>①卓球部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新潟県総合体育大会卓球競技 <ul style="list-style-type: none"> <li>男子学校対抗 2位</li> <li>女子学校対抗 優勝</li> <li>男女シングルス 優勝</li> <li>男女ダブルス 優勝</li> </ul> </li> <li>○北信越高等学校総合体育大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>男子学校対抗 3位</li> </ul> </li> <li>○卓球競技 <ul style="list-style-type: none"> <li>女子学校対抗 2位</li> <li>男子シングルス 5位</li> <li>女子シングルス 5位</li> <li>男子ダブルス 3位</li> <li>女子ダブルス 出場</li> </ul> </li> <li>○全国高等学校総合体育大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>女子学校対抗 出場</li> </ul> </li> <li>○卓球競技 <ul style="list-style-type: none"> <li>男女シングルス 出場</li> <li>男子ダブルス 出場</li> </ul> </li> <li>○国民体育大会 卓球競技 <ul style="list-style-type: none"> <li>少年男子 出場</li> </ul> </li> <li>○北信越高等学校選抜卓球大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>男子学校対抗 5位</li> </ul> </li> <li>○全日本卓球選手権大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>男子ジュニア 出場</li> <li>女子ジュニア 出場</li> <li>女子ダブルス 出場</li> </ul> </li> <li>○全国高等学校選抜卓球大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>男子学校対抗 出場</li> </ul> </li> </ul> <p>②陸上競技部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新潟県高等学校総合体育大会 陸上競技 入賞18種目 <ul style="list-style-type: none"> <li>男子 400m・5000mW・4×100mR・4×400mR・棒高跳・走幅跳・円盤投・やり投・八種競技</li> </ul> </li> </ul>

女子 400m・1500m・5000mW・走高跳・棒高跳・砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投

※学校対校 男子 準優勝 女子 8位

○新潟県高等学校総合体育大会 駅伝競走大会女子 優勝

○北信越総合体育大会陸上競技

男子 棒高跳 4位・5位・6位

女子 5000mW 7位 棒高跳 7位 円盤投 3位

○北信越総合体育大会 駅伝競走大会 女子 3位

○全国高等学校総合体育大会 陸上競技

男子 棒高跳 出場

女子 円盤投 出場

○全国高等学校駅伝競走大会 女子 42位

○全国選抜大会 陸上競技

男子 3000mW 5位 八種競技 20位

女子 2000m S C 3位

○国民体育大会 陸上競技

少年男子B 走幅跳 出場 (15位)

○新潟県選抜陸上競技大会

優勝 4種目

男子 400m・棒高跳・やり投

女子 3000m

入賞 21種目

男子 100m・110mH・5000mW・4×100mR・走高跳・棒高跳・走幅跳・砲丸投・円盤投・八種競技

女子 1500m・3000m・5000mW・4×400mR・走高跳・棒高跳・砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投・七種競技

※学校対校 男子 準優勝 女子 5位

○北信越新人大会 陸上競技

男子 400m 7位 棒高跳 優勝・5位 円盤投 6位

女子 3000m 優勝 棒高跳 4位 円盤投 5位

○日本ユース陸上競技選手権大会

男子 棒高跳 5位

### ③ソフトテニス部

○県高等学校総合体育大会 女子団体戦 3位

男子個人戦ベスト16

○北信越高等学校体育大会 個人戦に出場

### ④ゴルフ部

○第18回新潟県ジュニア選抜競技会 2位 6位

○関信越高等学校ゴルフ選手権大会

男子個人 2位 8位

男子団体 2位

○新潟県総合体育大会

男子個人 4位 男子団体 2位

女子個人 6位

○関東高等学校ゴルフ大会

男子個人 27位 男子団体 7位

○第12回NGA新潟県ゴルフ競技会 女子の部 1位

○国民体育大会少年男子の部 本校より1名選出される。

○全国高等学校ゴルフ選手権大会

男子個人出場 男子団体出場

	<p>○第19回新潟県ジュニアゴルフ競技会        高校男子の部 2位 3位 5位 6位        高校女子の部 2位</p> <p>○関信越高等学校ゴルフ選手権秋季大会 男子個人 16位        ○関東高等学校ゴルフ選手権大会冬季大会 男子個人 36位        ○全国高等学校ゴルフ選手権大会春季大会        男子個人 出場 関東シード権を獲得</p> <p>⑤水泳部</p> <p>○全日本ユースライフセービング選手権大会        男子個人サーフレース 1位、男子個人ボードレース 1位</p> <p>○三洋物産インターナショナルライフセービングカップ2016に男子1名が出場</p> <p>○北信越高等学校体育大会        女子200m個人メドレー 2位</p> <p>○全国高等学校総合体育大会・日本高校選手権水泳競技大会（インターハイ）に女子1名が出場</p> <p>○RESCUE 2016（世界大会）に男子1名が出場</p> <p>〈 オーシャン競技 〉        ボードレスキュー 5位（新潟産業大学生とペア）        ボードレース 16位        オーシャンマン 16位、        サーフレース 19位</p> <p>○全日本ジュニア／ユースライフセービング・プール競技会に男子1名女子1名が出場。        男子100mマネキントウウィズフィン 1位        男子50mマネキンキャリー 2位        女子100m障害物スイム 1位        女子100mマネキントウウィズフィン 2位</p> <p>⑥男子バスケットボール部</p> <p>○第45回BSN杯高等学校バスケットボール大会 第3位</p> <p>⑦女子バスケットボール部</p> <p>○県高等学校総合体育大会第3位の成績を収め、北信越大会に出場        ○第45回BSN杯高等学校バスケットボール大会 第3位</p> <p>⑧サッカー部</p> <p>○県高等学校総合体育大会 ベスト16        ○全国高校サッカー選手権大会新潟県大会 ベスト32        ○高円宮杯U-08サッカーリーグ2016新潟県リーグ1部 第6位</p>
<p>(2) 進学実績（大学・短期大学進学率55.9%、専修学校23.4%）</p>	<p>進学実績（大学・短期大学進学率55.9%、専修学校23.4%）        ※昨年度大学・短期大学進学率66.2%、専修学校17.7%</p> <p>①4年制大学進学率は46.9%であった。        ②7年連続で国公立大学合格者を輩出した。        ③一般受験での合格が大幅に増加し、確かな学力を着けてきた。</p> <p>取り組み</p> <p>①夏期特進講座（5日間、国語5時間、数学5時間、英語5間）・冬期</p>

	<p>特進講座（5日間、国語5時間、数学5時間、英語5時間）・サマーゼミ（2泊3日の学習合宿、国語5時間、数学5時間、英語5時間、個別指導等6時間）・春期特進講座（5日間、国語5時間、数学5時間、英語5時間）は前年度と同様に計画・実施した。</p> <p>サマーゼミは、全学年を対象に北志賀高原にて実施した。</p> <p>②大学進学プログラム 月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の8限及び水曜日の7、8限と土曜日の1、2、3限を利用し、大学進学に向けた学力向上を図った。</p> <p>③高大連携教育（ブリッジプログラム）の実施 1年生のフレッシューズセミナー等、附属高校独自のキャリア教育も大学側の多大な協力により予定どおり実施できた。</p>
--	--

### 3 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ

事業項目	平成28年度実施内容
(1) 生徒への支援	<p><b>【教務部】</b></p> <p>《今年度の重点事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度教育課程の実施および検証</li> <li>・授業規律の徹底</li> <li>・学習活動・内容の工夫</li> <li>・進路指導部との連携にした効果的な学習指導</li> <li>・適切な成績評価の実施</li> </ul> <p>《具体的な取り組み》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①問題点等の有無を確認しながら実施・検証した。</li> <li>②期限付きの取り組み（出席率向上、ベル着席率向上、学習活動完了率向上）を定期的に7～8日間で実施した。</li> <li>③授業に興味・関心を持って取り組めるように工夫を施した。</li> <li>④大学進学プログラムや放課後の自主学習を進路指導部と連携しながら実施し、学習状況の点検や適切な助言を行い、希望進路達成を支援した。また、各長期休業に「特進講座」を1週間実施し、進学希望者の学力伸長を図った。</li> <li>⑤定期考査の成績をベースにして、それ以外の要素を総合的に判断して評価した。</li> </ol> <p>《結果》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①問題点は特別指摘されず、適切に運用されていた。</li> <li>②生徒指導部が実施する授業巡視と連携して行い、状況は好転した。</li> <li>③生徒が徐々に授業に対して意欲的に取り組むようになった。</li> <li>④学力伸長を図ることを中心にしながら、データの解説や精神的な部分の支援も積極的に行った。</li> <li>⑤平常点のウエイトを若干重くしたため、最初から投げ出す生徒が減少した。</li> </ol> <p><b>【生徒指導部】</b></p>

《今年度の重点事項》

- ・ 規律ある生活態度の育成、社会のルールやマナーの理解・実践
- ・ 生徒が授業や部活動、行事に主体的に参加するための援助
- ・ 制服の正しい着用

《具体的な取り組み》

① 基本的な生活習慣の確立（欠席・遅刻・早退の防止）と転・退学者の防止

保護者からの連絡、届出を徹底させ、連絡がない場合には保護者に確認をした。不登校の生徒については、学校全体で共有した情報を持って丁寧に指導し、中途退学者を減らす努力をした。

② 校内規律の確立（制服・頭髪・言葉遣い）と社会のルールの遵守  
制服・頭髪については定期的に各学年で検査を実施し改善させた。

③ 学業に不必要な物品等を持ち込まない指導

ゲーム機、音楽プレイヤー、カード類、雑誌類、装飾品等の持ち込みを厳しく禁止した。

④ 立哨指導、巡視指導

生徒玄関での生徒指導部を中心とした立哨指を学期ごとの始めに実施した。

授業巡視や授業中にチェックシートを使い、生徒指導を行った。

⑤ 長期休業の事前指導

夏季・冬季・春季休業中の生活について生徒に文書を配布し、学年集会、各HRで事前指導を実施した。また、保護者にも文書を配布し、期末PTA等で協力をお願いした。

⑥ 生徒会主催の県総体激励会、インターハイ・北信越・野球部激励会の実施

⑦ 腰パン禁止、シャツ出し禁止、スカートの正しい着用、ネクタイの正しい着用等の身だしなみの取り組みを年間通して指導をした。

《結果》

① 無断欠席、無断早退がなく、生徒の所在が確認できた。不登校生徒は家庭訪問で状況把握ができた。しかし、部活動指導者の転出に伴い転出者が増える結果となった。

② 頭髪の改善については、保護者に連絡し協力を得られた。高校生らしい清楚な容姿になってきた。

③ 授業姿勢、雰囲気は向上し生徒、教師共に相乗効果があった。

④ 挨拶指導、服装指導に効果があった。安田駅の乗降車、マナー指導は社会のルール遵守に効果があった。

⑤ 長期休業中は事故・事件はなかった。

⑥ 北信越大会、インターハイ、国体に多くの生徒が出場した。

⑦ 正しい制服の着用については、段階的な指導を実施した。生徒はルール遵守の重要性が理解できた。

【進路指導部】

《今年度の重点事項》

- ・ 大学等進学率 70%以上を目指す。

- ・ 国公立大学や難関私立大学合格者数の増加
- ・ 新潟産業大学への進学者の増加
- ・ 就職内定率 100%を目指す。

《具体的な取り組み》

- ①進路の手引きの改訂
- ②資料の蓄積・整理と生徒への激励
- ③カレッジコースの1年から3年までの一貫した進路指導
- ④大学進学者の増加策
  - ア. 教務部と協力し、朝学習（小テスト）や大学進学プログラムの実施
  - イ. カレッジコースだけでなく、校長推薦大学等進学者にもセンター試験を受験させる。
  - ウ. 国公立大学や難関私立大学の合格者を増やすために、学力の高い生徒に対し志望校を早期設定させ、推薦選抜入試対策として、必要な小論文・面接指導等の早期指導をする。
  - エ. ラーナズクラブの強化。（勉強をしたい生徒を集め、運動部がインターハイを目指すのと同様に、第1志望の大学に合格することを目標として活動し、国公立大学や難関私立大学の合格者増につなげる）
  - オ. 各教室に進学コーナー用本棚を設置する。（早期の進学意識の啓発）
  - カ. 大学進学に意欲ある生徒を発掘し、個別指導を徹底
  - キ. 「受験サプリ」を有効に活用し、受験学力の向上を図る。
- ⑤履歴書に書ける特技や資格を身につけさせる。
- ⑥積極的な求人先の開拓と就職内定への指導の徹底
- ⑦ファインシステムの活用（ベネッセコーポレーション）
  - ア. 学年・教科分析
  - イ. クラス成績分析
  - ウ. 個人成績分析
- ⑧広報による啓発活動

《結果》

- ①進路の手引きを改定し、全校生徒・保護者に配布した。進路希望調査は学期毎に実施したが、教師の指導もあり全体的に進学志向が高まっている。
- ②進路指導室については、生徒が利用しやすいスペース造りや資料の蓄積と整理をしたことから、利用する生徒が増えた。  
センター試験激励会を開催し、試験前日は校内で、盛大に受験生の激励を行ない、試験当日も会場で激励を行った。
- ③カレッジコースの卒業時までの継続した進路指導として、センター試験説明会を学期毎にし、モチベーションを高めた。
- ④大学進学者の増加策として、学年毎の進学指導を強化し、国公立大学への推薦選抜入試の指導やラーナズクラブ（勉強部）を指導して大学進学者数の底上げを図ったが、国公立大学へは1名合格という結果であった。しかしながら、学力入試のみで有名私大・短大に合格するという快挙がみられた。  
「リクルートの受験サプリ」以外にも学年全体で、「ベネッセの学習支援サービス」に加入し、何時でも何処でも学習できる環境を備えることができた。  
「サマーゼミ（学習合宿）」を実施し、学習習慣と効率的な学習法を

	<p>身に付けることができた。</p> <p>⑤履歴書に書ける特技や資格を身に付けさせる目的から、各種資格の取得を奨励し、「5t未満クレーン」「アーク溶接」「低圧電気」等の資格を取得させた。</p> <p>「手話講座」を行い、柏崎市職員の方から指導を受け、基本的な範囲であるが特技の一つとして体得した。</p> <p>⑥新たな求人先の開拓を目指し、積極的に企業訪問を行った。また、学校長からの紹介により、新しいパイプも増えた。</p> <p>就職試験対策ゼミを開催し、「クレペリン検査」「作文」「一般常識」等就職試験に向けた指導を行い、事前学習・事前準備を促すことができた。校内開催のハローワーク相談室では、職安職員より就職応募に向けた指導を受けた。また、就職ガイダンスⅠにおいては、就職試験までのプロセスや就職試験の厳しさ等の説明をし、気を引き締める機会となった。更に厚生労働省主催による就職ガイダンスⅡでは、職業指導員から面接の受け方や就職への心構え等の指導を受け、実践力を身に付けたことから、求職者全員が内定した。</p> <p>就職希望者を対象として、社会人準備セミナーを実施した。「社会でのマナー」について、キャリアサポーター講師より講演を受け、社会人としての緊張感をもちさせることができた。</p> <p>⑦ベネッセの模擬試験によるデータを活用しながら、生徒個々の進路指導に役立てることができた。</p> <p>⑧進路指導ニュース「部活で燃える進路で輝け」の発行により、生徒には進路に対する意識付けと自信をもち、地域に対しては本校をPRする活動の一助にもなり「生徒募集」に役立てることができた。</p>
--	---

#### 4 生徒募集

事業項目	平成 28 年度実施内容
(1) 中学校訪問の強化 (長岡・上越地域の生徒の増加のために)	<p>第 1 回から 3 回までの中学校訪問は、午後から授業のない考査期間中に実施した。第 4 回は二次入試の出願日程に合わせるとともに、訪問者の授業時間割を考慮し、訪問日を分散させた。</p> <p>○第 1 回中学校訪問 (広報活動、情報収集) 7 月 1 日 (金)、4 日 (月) 79 校 (昨年度 77 校) 柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川</p> <p>○第 2 回中学校訪問 (生徒募集並びに広報活動、学校見学会案内) 10 月 12 日 (水)、13 日 (木) 79 校 (昨年度 77 校) 柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川</p> <p>○第 3 回中学校訪問 (推薦・第一次・部活動専願入試に向けて、中学校の出願状況、情報収集及び募集活動) 11 月 24 日 (木)、11 月 25 日 (金)、11 月 28 日 (月) 79 校 (昨年度 77 校) 柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川</p> <p>○第 4 回中学校訪問 (第二次入試に向けて、情報収集及び募集活動、推薦・第 1 次・部活動専願入試の報告)</p>

	2月23日(木)、24日(金) 79校(昨年度57校) 柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川
(2) 高校説明会(中学校からの依頼参加)	<p>&lt;柏崎・刈羽地区(13校)13回&gt;</p> <p>①5月20日(金) 柏崎市立第一中学校  ②6月3日(金) 柏崎市立瑞穂中学校  ③6月7日(火) 柏崎市立西山中学校  ④6月10日(金) 刈羽村立刈羽中学校  ⑤6月14日(火) 柏崎市立鏡が沖中学校  ⑥6月21日(火) 柏崎市立北条中学校  ⑦6月22日(水) 柏崎市立第二中学校  ⑧6月27日(月) 柏崎市立第五中学校  ⑨7月5日(火) 柏崎市立第三中学校  ⑩7月6日(水) 柏崎市立東中学校  ⑪7月7日(木) 柏崎市立南中学校  ⑫7月8日(金) 柏崎市立松浜中学校  ⑬7月12日(火) 柏崎市立高柳中学校</p> <p>&lt;長岡地区(6校)6回&gt;</p> <p>①6月14日(火) 長岡市立宮内中学校  ②6月24日(金) 長岡市立関原中学校  ③7月14日(木) 長岡市立北中学校  ④7月15日(金) 長岡市立北辰中学校  ⑤9月27日(火) 長岡市立小国中学校</p> <p>&lt;上越地区(10校)10回&gt;</p> <p>①6月15日(水) 上越市立城東中学校  ②6月16日(木) 上越市立大潟町中学校  ③6月16日(木) 妙高市立妙高原中学校  ④6月17日(金) 上越市立城西中学校  ⑤6月20日(月) 上越市立直江津中学校  ⑥6月22日(水) 上越市立春日中学校  ⑦7月8日(金) 妙高市立新井中学校  ⑧9月30日(金) 上越市立柿崎中学校  ⑨10月14日(金) 上越市立頸城中学校  ⑩11月16日(水) 上越市立吉川中学校</p> <p>&lt;十日町・小千谷地区(2校)2回&gt;</p> <p>①7月6日(水) 小千谷市立東小千谷中学校  ②7月13日(水) 十日町市立中里中学校</p>
(3) 中学校教師対象入試説明会	9月16日(金) 18校 18人 (平成27年度16校 16人参加) 柏崎市立第一中学校、第二中学校、第三中学校、鏡が沖中学校、瑞穂中学校、松浜中学校、東中学校、第五中学校、北条中学校、高柳中学校、西山中学校、刈羽村立刈羽中学校、長岡市立関原中学校、大島中学校、青葉台中学校、越路中学校、小国中学校、妙高市立新井中学校
(4) 学校見学会(才一)	○第1回学校見学会 7月9日(土) (部活動体験、産附弁当配付)

<p>プンスクール)</p>	<p>129人(昨年度150人)</p> <p>○第2回学校見学会10月14日(金)(授業・部活動体験、産附弁当配付) 162人(昨年度168人)</p> <p>○個別見学会 随時(校舎・授業見学) (参考)平成15年度50人、平成16年度86人、平成17年度56人、 平成18年度76人、平成19年度90人、平成20年度168人、 平成21年度170人、平成22年度145人、平成23年度242人、 平成24年度269人、平成25年度280人、平成26年度237人、 平成27年度237人、平成28年度291人</p> <p>※学校見学会には、多くの中学生の参加があり、授業や部活動の見学・ 体験から、本校についての理解を深めてもらった。</p>																																																												
<p>(5)募集結果(平成29年度)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>募集学級</th> <th>募集定員</th> <th>区分</th> <th>志願</th> <th>受験</th> <th>合格</th> <th>入学 手続</th> <th>入学 許可</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">普通</td> <td rowspan="8">4</td> <td rowspan="8">160</td> <td>学業特別推薦</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>スポーツ特別推薦</td> <td>86</td> <td>86</td> <td>86</td> <td>86</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>一次(専願)</td> <td>36</td> <td>36</td> <td>36</td> <td>36</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>部活動専願</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>併願推薦</td> <td>194</td> <td>194</td> <td>194</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>一般併願</td> <td>106</td> <td>105</td> <td>80</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>二次</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>455</td> <td>454</td> <td>429</td> <td>139</td> <td>139</td> </tr> </tbody> </table>	学科	募集学級	募集定員	区分	志願	受験	合格	入学 手続	入学 許可	普通	4	160	学業特別推薦	19	19	19	0	0	スポーツ特別推薦	86	86	86	86	86	一次(専願)	36	36	36	36	36	部活動専願	14	14	14	14	14	併願推薦	194	194	194	0	0	一般併願	106	105	80	3	3	二次	0	0	0	0	0	計	455	454	429	139	139
学科	募集学級	募集定員	区分	志願	受験	合格	入学 手続	入学 許可																																																					
普通	4	160	学業特別推薦	19	19	19	0	0																																																					
			スポーツ特別推薦	86	86	86	86	86																																																					
			一次(専願)	36	36	36	36	36																																																					
			部活動専願	14	14	14	14	14																																																					
			併願推薦	194	194	194	0	0																																																					
			一般併願	106	105	80	3	3																																																					
			二次	0	0	0	0	0																																																					
			計	455	454	429	139	139																																																					

## 5 新規取組事項

- (1) 卓球部、陸上競技部、ゴルフ部が新潟県の事業である「魅力ある私立高校づくり支援事業」2巡目(1巡3年間)の指定を受け、その3年目として事業に取り組んだ。平成28年度は、卓球部は中国遠征、県外遠征に力を入れ、陸上競技部は地域の治療院の協力を得て、選手のコンディショニングに努めるとともに、合宿の充実も計った。ゴルフ部はアスリートクリニック、県外遠征、強化練習等の取組みをし、各部活とも結果を出した。
- (2) 修学旅行先においては、異文化に触れることを目的としてグアムに渡航した。
- (3) 講堂にエアコンを設置した。
- (4) 電子黒板を普通教室に3台、特別教室に2台設置した。
- (5) 平成28年度卒業記念事業として、駐車場にソーラ時計、図書室にテーブル・スタッキングチェアを整備した。

資金収支計算書

平成28年4月1日から

平成29年3月31日まで

<学校法人柏専学院>

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	560,392,000	563,624,009	▲ 3,232,009
手数料収入	10,434,000	11,106,836	▲ 672,836
寄付金収入	4,367,000	4,870,090	▲ 503,090
補助金収入	400,716,000	400,118,730	597,270
国庫補助金収入	166,255,000	166,243,856	11,144
地方公共団体補助金収入	234,461,000	233,874,874	586,126
資産売却収入	0	370,339	▲ 370,339
付随事業・収益事業収入	23,607,000	23,612,000	▲ 5,000
受取利息・配当金収入	67,000	70,507	▲ 3,507
雑収入	122,233,000	120,655,853	1,577,147
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	39,601,000	58,061,168	▲ 18,460,168
その他の収入	283,969,558	213,300,063	70,669,495
資金収入調整勘定	▲ 199,988,668	▲ 204,981,252	4,992,584
前年度繰越支払資金	724,016,138	724,016,138	0
収入の部合計	1,969,414,028	1,914,824,481	54,589,547
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	776,995,000	775,681,557	1,313,443
教育研究経費支出	355,909,000	346,952,904	8,956,096
管理経費支出	106,685,000	102,958,580	3,726,420
借入金等利息支出	71,000	70,372	628
借入金等返済支出	2,353,000	2,352,200	800
施設関係支出	10,758,000	9,180,000	1,578,000
設備関係支出	16,999,000	14,215,157	2,783,843
資産運用支出	150,275,195	150,276,225	▲ 1,030
その他の支出	124,352,313	58,918,863	65,433,450
[予備費]	(0)		
	19,200,000		19,200,000
資金支出調整勘定	▲ 102,131,802	▲ 102,367,419	235,617
翌年度繰越支払資金	507,948,322	556,586,042	▲ 48,637,720
支出の部合計	1,969,414,028	1,914,824,481	54,589,547

事業活動収支計算書

平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで

<学校法人柏専学院>

(単位 円)

		科 目	予 算	決 算	差 異	
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	522,319,000	525,988,155	▲ 3,669,155	
		手数料	8,032,000	8,493,910	▲ 461,910	
		寄付金	11,304,000	11,117,596	186,404	
		経常費等補助金	370,473,000	371,648,221	▲ 1,175,221	
		国庫補助金	152,439,000	152,743,960	▲ 304,960	
		地方公共団体補助金	218,034,000	218,904,261	▲ 870,261	
		付随事業収入	32,071,000	32,366,000	▲ 295,000	
		雑収入	64,847,000	64,045,699	801,301	
		教育活動収入計	1,009,046,000	1,013,659,581	▲ 4,613,581	
	教育活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	683,027,000	672,711,687	10,315,313	
		教育研究経費	383,776,000	373,724,892	10,051,108	
		管理経費	129,545,000	123,447,131	6,097,869	
		徴収不能額等	0	2,416,750	▲ 2,416,750	
	教育活動支出計	1,196,348,000	1,172,300,460	24,047,540		
教育活動収支差額			▲ 187,302,000	▲ 158,640,879	▲ 28,661,121	
教育活動外収入の部	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		受取利息・配当金	1,001,000	693,239	307,761	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	1,001,000	693,239	307,761	
	教育活動外支出の部	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
			借入金利息	71,000	94,860	▲ 23,860
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
	教育活動外支出計	71,000	94,860	▲ 23,860		
教育活動外収支差額			930,000	598,379	331,621	
経常収支差額			▲ 186,372,000	▲ 158,042,500	▲ 28,329,500	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	790,000	790,000	0	
		特別収入計	790,000	790,000	0	
	事業活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
			資産処分差額	1,483,000	1,489,328	▲ 6,328
		その他の特別支出	701,000	700,030	970	
	特別支出計	2,184,000	2,189,358	▲ 5,358		
特別収支差額			▲ 1,394,000	▲ 1,399,358	5,358	
〔予備費〕			(0)		18,200,000	
基本金組入前当年度収支差額			▲ 205,966,000	▲ 159,441,858	▲ 46,524,142	
基本金組入額合計			▲ 9,014,000	▲ 8,404,666	▲ 609,334	
当年度収支差額			▲ 214,980,000	▲ 167,846,524	▲ 47,133,476	
前年度繰越収支差額			▲ 2,655,123,087	▲ 2,655,123,087	0	
基本金取崩額			0	0	0	
翌年度繰越収支差額			▲ 2,870,103,087	▲ 2,822,969,611	▲ 47,133,476	
(参考)						
事業活動収入計			1,010,837,000	1,015,142,820	▲ 4,305,820	
事業活動支出計			1,216,803,000	1,174,584,678	42,218,322	

貸借対照表

平成28年3月31日

<学校法人柏専学院>

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	3,508,691,955	3,904,774,970	▲ 396,083,015
有形固定資産	3,090,467,412	3,177,831,340	▲ 87,363,928
特定資産	411,501,161	420,264,369	▲ 8,763,208
その他の固定資産	6,723,382	306,679,261	▲ 299,955,879
流動資産	787,058,486	594,986,410	192,072,076
資産の部合計	4,295,750,441	4,499,761,380	▲ 204,010,939
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	372,554,418	396,453,122	▲ 23,898,704
流動負債	138,170,457	158,840,834	▲ 20,670,377
負債の部合計	510,724,875	555,293,956	▲ 44,569,081
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	6,607,995,177	6,599,590,511	8,404,666
第1号基本金	6,443,995,177	6,435,590,511	8,404,666
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	4,000,000	4,000,000	0
第4号基本金	160,000,000	160,000,000	0
繰越収支差額	▲ 2,822,969,611	▲ 2,655,123,087	▲ 167,846,524
純資産の部合計	3,785,025,566	3,944,467,424	▲ 159,441,858
負債及び純資産の部合計	4,295,750,441	4,499,761,380	▲ 204,010,939